

台湾テクノロジー機関・産業団体訪問レポート

2024年2月、台湾の電子産業団体および研究機関をCEATEC運営事務局グローバル担当として訪問しました。

台湾は半導体や電子機器分野で世界的な存在感を持つだけでなく、近年はAI、IoT、サイバーセキュリティなどの分野でも急速に成長を続けています。今回の訪問では、複数の産業団体や研究機関を訪れ、台湾の技術動向やスタートアップの取り組み、日本企業との連携可能性について幅広く情報交換を行う機会となりました。

台湾のテクノロジー産業の活力と国際志向を改めて実感する訪問となりました。

台湾のIT・サイバーセキュリティ産業の広がり

台湾のIT関連団体との交流では、会員企業やスタートアップが参加する形で担当するCEATECの説明会と意見交換が行われました。参加企業からは、日本企業との技術連携やビジネス機会に関する関心が高く、AIソフトウェアやセキュリティ関連企業を中心に多くの質問が寄せられました。台湾では政府主導でサイバーセキュリティ産業の強化が進められており、関連企業の市場規模も拡大を続けているとのことです。

活発な議論からは、台湾企業の国際ビジネスへの積極的な姿勢が強く感じられました。



台湾を代表する研究開発機関を訪問

台湾の産業技術研究を牽引する研究機関 ITRI も訪問する機会を得て、研究開発の取り組みや技術展示を見学しました。



ショールームではAI、IoT、電子システムなどの研究成果が紹介されており、基礎研究から産業応用までを意識した台湾の研究開発エコシステムを垣間見ることができました。

展示の多くは実用化を前提とした技術で、日本企業との共同研究や産業連携への期待も感じられました。

台湾電子産業団体との交流

台湾の電子産業団体では、多くの企業が参加する形で意見交換の場が設けられました。

AI、モビリティ、電子部品、通信技術など幅広いテーマについて議論が行われ、日本市場への関心の高さが印象的でした。台湾の電子産業は半導体だけでなく、電子部品、通信機器、ITサービスなど多様な分野で強みを持っており、日本との技術連携の可能性について活発な意見交換が行われました。



会場では現地メディアによる取材も行われ、日台電子産業の連携への関心の高さを感ずる機会となりました。

台湾と日本のテクノロジー連携の可能性

台湾は世界有数の電子機器供給拠点であり、IoT、AI、データ技術など先端分野でも急速に成長を続けています。

こうした分野は日本企業とも親和性が高く、技術交流やビジネス連携の可能性は今後さらに広がっていくと感じられました。今回の訪問を通じて、台湾の産業界が日本との協力関係を重視していることも改めて実感しました。

おまけ：淡水で出会った台湾の夕暮れ

7年ぶりの台湾。地元の方に勧められて、仕事が終わった後にひとりで「淡水」へ行ってみました。

初めて訪れる場所でしたが、地下鉄の終点まで約40分ほど。交通費も300円ほどで気軽に行くことができます。

日本人にはあまり知られていない場所ですが、川沿いの景色と夕暮れの空がとても美しく、ゆったりとした時間を過ごすことができました。



忙しい出張の合間に、台湾の穏やかな夕景を味わえた、ちょっとした旅の楽しみでした。🇹🇼

(記：岩口摩理子)

M.I.Office は、国際会議・展示会・イベントの企画運営を通じて、国内外のビジネス交流と価値創出を支援しています。

活動レポートでは、スタッフが現場や訪問先で得た気づきやトレンドをご紹介します。